2020年2月6日			
差枚	+1071枚	RANK	A

実戦機種

3×3EYES～聖魔覚醒～

実戦レポート

よくある話だが、パチンカー・スロッターが1日でもっともテンション高く輝いているのは、開店待ちの時だと思う。今日は何を打とうか、高設定に座れるだろうか、どんなフラグを引いてメダルを出そうか…等々、未来への希望は尽きることが無い。そんな夢見る紳士・淑女たちにとって最初の関門が入場抽選（あるいは並び順）であるのは言うまでもないが、その際に「どのくらい早い番号が取りたいか？」でまた各自のモチベーションが変わってくる。では、もし“高設定が入る台がほぼ毎回決まっている”店だとしたらどうだろうか…？

この日、約60人が並んだ中でオレが引いたのは「2番」。来た来たキタ！　いつもほぼ高設定、というか設定Cが入る「3×3EYES～聖魔覚醒～」を打てるチャンスが久しぶりにやって来た！過去に（別の店で）同じような状況で設定Cを何回か打てたことがあるが、それはもうどのくらい前だったか思い出せないほどだ。このお店で実戦をする時、実は密かに毎回「1番を取れたらサザン行くか…？」と繰り広げられていた脳内会議は、番号を引いた瞬間にお開きになるのが常だったが、今日は初めて続行することになりそうだ。2番である。オレの前に1人、どうしても超えられない1番手の先駆者が居て、この差は絶対に覆らないのだ。「何を打ちますか？」と尋ねるのは簡単だ。先頭集団を形成する者同士が互いの狙いを確認し合い、真っ先に向かう機種を被らないように調整するのはよくある光景だし、せっかく手にした好位置をムダにしたくないならやるべきだと思う。でも、オレはそれをしなかった。1番手に続いて入店し、その男がどう動くのか、向かう先は同じなのか違うのか、それによってオレは瞬時に次の行動を判断してどう動くべきなのか、そのスリルやドキドキ感までも楽しもうと思ったのだ。もし、ボーナス告知が完全先告知と完全後告知を選べるとしたら、絶対に後告知を選ぶのがオレなのだ。

かくして開店時間を迎え、1番手のすぐ後に入店。このホールは手前から1列目がノーマルタイプ、AT・ART機が2列目＆3列目、一番奥にバラエティコーナーという4列構成になっており、問題のサザンアイズは入口からもっとも遠い、バラエティの一番端にある。なので1番手の男が途中のどこかで道を逸れれば、その時点でオレが確保できることが濃厚になるのだ。まずは1列目…通過、2列目…も、通過！　2列目が最新機種のエウレカ3や人気のリゼロ、まどか新編などが設置されているシマだったので、そこを通過したということは…ヤバい！　と焦った直後、3列目に先駆者は消えていった。「確定！」そんなランプがオレの脳内に点灯した瞬間だった。そこから約12時間半、閉店間際まで8745G回したけど、後半4時間はジワジワと出玉を減らし続けて期待出玉の半分以下のA級で終了だった結果は、まぁおまけみたいな物だ。